

科目名	聖和総合教育				担当者	セン 専 任 教 員						
区分	必修	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける										
専門的 学習成果	①	学問を通じて幅広い知識や教養を身につけ、物事を主体的、総合的に判断できる思考力を培い、社会生活にいかすことができる。										
	②	建学の精神に基づき日本人の心と文化を支えている「慈悲」「和」等の仏教の精神を学び、自他を慈しみ協働することができる。										
	③	「社会に貢献していく生き方」について考え、自己啓発を続けることができる。										
	④	コミュニケーション能力を高めると共に、社会人としてマナーや人間性豊かな保育者としての基礎を形成し、実践にかなげることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	建学の精神に基づき仏教精神に学びながら、社会に貢献していく生き方について探究することができる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(2)	学問を通じて幅広い知識や教養を身につけ、現代社会に対応できる総合的な判断力とコミュニケーション能力を身につけ、社会生活にいかすことができる。(専門的学習成果①④に関連)										
授業概要	本学の理念である仏教精神に学びながら、自己と他者とともに慈しみ尊重する和の心を持って社会に貢献していく生き方について考える。また、本学での学びと社会人としての教養の基礎となる豊かなコミュニケーション能力を身につける。さらに保育に関する課題について研究討議し、保育者としての資質の向上を図る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	レポートを6回実施する。各5%で評価する。								
		平常点	70	授業への参加態度、関心、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価で評価する。 (1) は専門的学習成果②③で評価する。 (2) は専門的学習成果①④で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	文部科学省		『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示)									
	厚生労働省		『保育所保育指針』(平成29年3月告示)									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示)									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	文部科学省		『幼稚園教育要領解説』(平成30年)									
	厚生労働省		『保育所保育指針解説』(平成30年)									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①保育者の基礎となり、社会人の基本となる新聞やニュース等を通じて様々な社会の出来事に関心を持つこと(予習:30分)。 ②単元ごとにレポートを課し、その内容を評価の対象として重視するため、自らの考察をしっかりと記述する(復習:30分)。提出されたレポートは全体的な解説・好評を行う。										

		授業計画		学習成果の評価		授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	聖和総合教育について		授業への参加態度、関心、意欲を評価する。		16回	授業内容	後期での課題解決に向けて:個別面接	
	学習成果	聖和総合教育の具体的内容と到達目標を理解し、説明できる。					学習成果	学習成果の自己評価をもとにした個別面接を通して、解決に向けた適切な取り組み課題を設定する能力を養い、実践につなげることができる。	
	予習復習の内容	聖和総合教育のシラバスを読み、理解する。					予習復習の内容	取り組みべき課題を明確にし、課題解決に向けたプロセスについて理解しておく。	
2回	授業内容	講演会(1) 地域で生活する際のマナーと安全管理		レポート 当日中に提出		17回	授業内容	実習を振り返り自らの態度やマナーを考える:ゼミ	
	学習成果	社会人として生活するうえで必要とされるマナーと安全管理について説明できる。					学習成果	実習の振り返りを通して、そこで見てきた自分の態度やマナーの課題を見出し、実践につなげることができる。	
	予習復習の内容	社会人マナー(公共交通機関の利用、SNS、防犯等)について説明できるようにしておく。					予習復習の内容	実習を振り返り、自らの態度やマナーの課題を整理し、表現できるようにしておく。	
3回	授業内容	降誕会		授業への参加態度、関心、意欲を評価する。		18回	授業内容	課題を取り上げ研究討議(ゼミ)	
	学習成果	降誕会を通して、仏教精神を理解し、説明できる。					学習成果	ゼミで課題を取り上げ研究討議する中で、自らの考えを適切に表現できる。	
	予習復習の内容	降誕会について説明できるようにしておく。					予習復習の内容	ゼミの課題内容について理解し、関係する文献を調べて自分の考えを説明できるようにしておく。	
4回	授業内容	建学の精神を学ぶ		レポート 当日中に提出		19回	授業内容	職業について考える:公務員という仕事	
	学習成果	学長講和「建学の精神」を通して建学の精神について理解し、説明できる。					学習成果	公務員について理解する。社会に貢献できるようになるために今取り組むべきことを考え、実践につなげることができる。	
	予習復習の内容	建学の精神について説明できるようにしておく。					予習復習の内容	公務員について内容や取り組みべきことを具体的に理解し、職業選択にいかすことができるようにしておく。	
5回	授業内容	メディア・情報リテラシー教育:新聞を読む(1)		授業への参加態度、関心、意欲を評価する。		20回	授業内容	課題を取り上げ研究討議(ゼミ)	
	学習成果	新聞を読みメディアの特性を知り、社会生活で活用できる。					学習成果	ゼミで課題を取り上げ研究討議する中で、自らの考えを適切に表現できる。	
	予習復習の内容	記事に対する感想・意見の記述・表明、読み比べなどを通して、新聞の特性を知り社会生活で活用できる。					予習復習の内容	ゼミの課題内容について理解し、関係する文献を調べて自分の考えを説明できるようにしておく。	
6回	授業内容	メディア・情報リテラシー教育:新聞を読む(2)				21回	授業内容	メディア・情報リテラシー教育:新聞を読む(3)	
	学習成果	スクラップ、要約を通して、情報の的確な読み取りと活用する力を習得して社会生活で活用できる。					学習成果	新聞が発信する情報を主体的に読み解き、評価し、自らの考えを表現することができる。	
	予習復習の内容	新聞のスクラップ、要約、疑問を調べる作業を通して、情報の的確な読み取りと活用する力を習得する。					予習復習の内容	記事に対して他の資料等も加えてクリティカルに読み込み、自らの考えをまとめておく。	
7回	授業内容	地域交流:特別支援学校との交流(1)		レポート 当日中に提出		22回	授業内容	社会人マナー(3) 電話の応対	
	学習成果	光明支援学校高等部との交流を通して、コミュニケーション能力を高め、主体的な行動をとれるようになる。					学習成果	電話の応対を学び、社会人として適切なマナーを生活で活用できる。	
	予習復習の内容	交流を通して特別支援教育について理解を深め、コミュニケーション能力を高める。					予習復習の内容	電話応対について理解し、日常でも実践する。	
8回	授業内容	社会人マナー(1) 挨拶の基本		授業への参加態度、関心、意欲を評価する。		23回	授業内容	講演会(2)「命の大切さ」	
	学習成果	挨拶のマナーを基本から学び、日常で実践できる。					学習成果	講演会を通して「命の大切さ」について考え、自他を慈しむ態度を有する。	
	予習復習の内容	挨拶のマナーについて理解し、実践できるようにしておく。					予習復習の内容	命に関する文献を読み、自己啓発に努める。	
9回	授業内容	課題を取り上げ研究討議(ゼミ)				24回	授業内容	課題を取り上げ研究討議(ゼミ)	
	学習成果	ゼミで課題を取り上げ研究討議する中で、自らの考えを適切に表現できる。					学習成果	ゼミで課題を取り上げ研究討議する中で、自らの考えを適切に表現できる。	
	予習復習の内容	ゼミの課題内容について理解し、関係する文献を調べて自分の考えを説明できるようにしておく。					予習復習の内容	ゼミの課題内容について理解し、関係する文献を調べて自分の考えを説明できるようにしておく。	
10回	授業内容	課題を取り上げ研究討議(ゼミ)				25回	授業内容	メディア・情報リテラシー教育:新聞を読む(4)	
	学習成果	ゼミで課題を取り上げ研究討議する中で、他者と協調、協働する力を養い実践につなげることができる。					学習成果	協力して作業を行う中で、他者の意見に耳を傾け、自らの考えをわかりやすく伝えることができる。	
	予習復習の内容	コミュニケーションに関する文献を調べて、自らのコミュニケーションについて振り返り課題を見出す。					予習復習の内容	様々な考え方に視野を広げ、他者との協働を意識する。	
11回	授業内容	社会人マナー(2) 敬語の使い方				26回	授業内容	メディア・情報リテラシー教育:発信者としての自分を考える	
	学習成果	敬語の使い方を学び、社会人として適切なマナーを生活で活用できる。					学習成果	メディアにおける情報発信の影響やトラブルを理解し、予測・回避することができる。	
	予習復習の内容	敬語の使い方について理解し、日常でも実践する。					予習復習の内容	個人がSNSやブログなどを利用する際の影響やトラブルについて理解しておく。	
12回	授業内容	精霊会				27回	授業内容	職業について考える:先輩からの話	
	学習成果	精霊会を通して、仏教精神を理解し、説明できる。					学習成果	先輩の話をもとに社会人の実際を理解する。社会に貢献できるようになるために今取り組むべきことを考え、実践につなげることができる。	
	予習復習の内容	精霊会について説明できるようにしておく。					予習復習の内容	働くことについてその実際や取り組むべきことを具体的に理解し、職業選択にいかすことができるようにしておく。	
13回	授業内容	地域交流:特別支援学校との交流(2)		レポート 当日中に提出		28回	授業内容	涅槃会	
	学習成果	光明支援学校高等部との交流を通して、他者理解を深め、他者と協調する力、協働する力を育み、地域社会で活用できる。					学習成果	涅槃会を通して、仏教精神を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	交流を通して障害について理解を深め、コミュニケーション能力を高める。					予習復習の内容	涅槃会について説明できるようにしておく。	
14回	授業内容	地域交流:特別支援学校との交流(3)		レポート 当日中に提出		29回	授業内容	保護者への手紙	
	学習成果	光明支援学校高等部との交流を通して、社会貢献活動について理解を深め、地域社会で活動できる。					学習成果	短大生活1年間を振り返り、周りの人たちに支えられていることを理解し、感謝を伝えることができる。	
	予習復習の内容	社会貢献活動について理解を深め、多様なボランティア活動の実際を理解しておく。					予習復習の内容	1年間を振り返り、支えてくれた人たちに思い、文章にすることができるようにしておく。	
15回	授業内容	前期の学びを振り返る		授業への参加態度、関心、意欲を評価する。		30回	授業内容	学習到達度テスト	
	学習成果	学習成果の自己評価を通して、前期の学びと課題を見出し、後期につなげることができる。					学習成果	1年間の学びを確認し、課題を見出す。	
	予習復習の内容	前期の学びと課題を整理して、説明できるようにしておく。					予習復習の内容	1年間の学習内容を理解しておく。課題を見出し解決に向けて計画を立てる。	

科目名	人間と仏教				担当者	鎌田文恵・鎌田清寛						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中または hushiki@gmail.com にて行う											
専門的 学習成果	①	仏教を身近にあるものとして理解を深め、活用できる										
	②	仏教における諸行事、特に降誕会・成道会・涅槃会について理解し概要を説明できる										
	③	仏教の基本的な教えについて理解し概要を説明できる										
	④	日本における仏教の代表的な十三宗派について全体的に理解し、概要を説明できる										
汎用的 学習成果	(1)	本学の建学の精神である仏教の精神を理解し、日々の生活に活かしていける（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	坐禅などを通して自己を整えていける（専門的学習成果①に関連）										
授業概要	<p>仏教の精神を基とする本学の建学の精神、即ち自他を大切に慈しむ「慈悲」の心、支えあい協力し合う「和」の心、「智慧」を学ぶ人間教育という精神に基づいて、仏教を我々の身近なものとして学んでいく。勤行や坐禅といった体験を通し心身を整え自己を見つめると共に、仏教の基本的な教え、お釈迦様の生涯、日本に伝来して以後の仏教各宗派について学び、今後の学生生活や社会人生活、或いは人生において道標として活かせるようにする。</p>											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	40	講義9～15回目の内容について実施し、40%を配点する								
		レポート										
		小テスト	40	講義1～7回目の内容について実施し、40%を配点する								
		平常点	20	受講態度の他、坐禅、読経、仏教聖歌への取り組みにより評価する								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～④で評価を行う (2)は専門的学習成果①で評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『礼讃抄／修嵐林』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『仏教聖典』										
	大角修監修	『イラストでわかるやさしい仏教』				成美堂出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①「般若心経」「延命十句観音経」の読経、及び仏教聖歌「三婦依文」「四弘誓願」の唱和を行うので、事前にテキスト「修嵐林」「礼讃抄」によく目を通し、最終的にテキストを見なくとも唱えられる・歌えるようになることが望ましい。(計60時間) また、毎回坐禅を行うので坐を組みやすい服装で出席すること。厳粛な気持ちで臨み、私語は慎んで受講すること。 ②坐禅は適時指導し坐相や取り組みを評価対象とする。お経や小テスト及び定期試験については講義内容をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。</p>											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	勤行、坐禅、講義「釈尊の生涯、降誕」	
	学習成果	坐禅や読経の仕方について理解する。降誕会について理解し概要を説明できる	
2回	予習復習の内容	「修嵐林」「礼讃抄」及び「仏教聖典」の2頁目～第一章「史上の仏」をよく読んでおく	
	授業内容	勤行、坐禅、講義「釈尊の生涯、出家そして成道へ」	
3回	学習成果	成道会、初転法輪について理解し概要を説明できる	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の2頁目～第一章「史上の仏」をよく読んでおく	
4回	授業内容	勤行、坐禅、講義「釈尊の生涯、布教伝道の旅と涅槃」	
	学習成果	涅槃会について理解し概要を説明できる	
5回	予習復習の内容	「仏教聖典」の2頁目～第一章「史上の仏」をよく読んでおく	
	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、三法印、四法印」	
6回	学習成果	三法印、四法印について理解し概要を説明できる	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の51頁目～第二章「人と心のありのままの姿」をよく読んでおく	
7回	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、縁起」	
	学習成果	因縁生起や十二因縁について理解し概要を説明できる	
8回	予習復習の内容	「仏教聖典」の42頁目～第一章「因縁」をよく読んでおく	
	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、四諦八正道、中道」	
9回	学習成果	四諦八正道、中道について理解し概要を説明できる	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の42頁目～第一章「因縁」をよく読んでおく	
10回	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、三学、六波羅蜜」	
	学習成果	六波羅蜜について理解し概要を説明できる	
11回	予習復習の内容	「仏教聖典」の163頁目～第二章「実践の道」をよく読んでおく	
	授業内容	勤行、坐禅、小テスト	
12回	学習成果	釈尊の生涯並びに仏教の基本的な教えについて理解し、概要を説明できる	
	予習復習の内容	「仏教聖典」や1～7回目の講義で配布したプリントなどを整理し復習しておく	
13回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、仏教の伝来と広がり」	
	学習成果	日本への仏教伝来と広がりについて理解し説明できる	
14回	予習復習の内容	自分の家のお墓があるお寺や身近にあるお寺の宗派などを調べておく	
	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、奈良時代の仏教、南都六宗」	
15回	学習成果	奈良時代から現代へ至る法相宗、華嚴宗、律宗について概要を理解し説明できる	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく	
16回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、天台宗・真言宗」	
	学習成果	天台宗、真言宗について概要を理解し説明できる	
17回	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく	
	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、融通念仏宗・浄土宗」	
18回	学習成果	浄土信仰、そこから生まれた融通念仏宗・浄土宗について概要を理解し説明できる	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく	
19回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、浄土真宗・時宗」	
	学習成果	浄土真宗・時宗について概要を理解し説明できる	
20回	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく	
	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、臨済宗・曹洞宗・黄檗宗」	
21回	学習成果	禅宗と呼ばれる臨済宗・曹洞宗・黄檗宗について概要を理解し説明できる	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく	
22回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、日蓮宗」	
	学習成果	日蓮宗について概要を理解し説明できる	
23回	予習復習の内容	授業全体の内容全体を改めて整理し復習しておく	

科目名	文学入門				担当者	関根俊二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)										
専門的 学習成果	①	多様な文学作品について知識をもち、説明することができる。										
	②	深く自由に作品を読み込む方法を把握し、説明することができる。										
	③	文学作品を通して自身の考察力をとらえなおし、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	文学についての教養を身につけ、社会生活をとらえなおすことができる。(専門的学習習成①②③に関連)										
	(2)	言語表現について理解が深まり、言語を自覚的・選択的に用いることができる。(専門的学習習成①③に関連)										
授業概要	社会や人生について主体的にとらえなおすために、文学は格好のツールだと考える。知らなかった世界を疑似体験し、新しい視点の有効なことを教えてくれ、多様な価値観と向き合うことができる。しかし、忙しく生きる私たちは、本来の読書の楽しさや作品をじっくりと読み解く方法を忘れがちである。この授業では、さまざまなジャンルの作品を扱い、文学の知的探求について理解を深めてもらう。また、そのためにも、文学作品を的確に読み取る技術を確認していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	100	計10回実施し(授業内での執筆を含む)、独創性と論理的説明の観点で各回10点を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	U・エーコ		『ウンベルト・エーコ 諸説の森散策』						岩波書店			
	E・ブロンテ		『嵐が丘』						各社の文庫			
	森絵都		『カラフル』						文藝春秋			
萩尾望都		『萩尾望都作品集9 半神』						小学館				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等			①授業で扱う作品を、授業の前後に読んでおくこと(各回あたり2時間程度)。また、関連する作品も紹介するので、積極的に読み進めてほしい(計15時間程度)。これらの活動は、<発見>を求め、<全体>と向き合うような読書であること。授業外での執筆を課すレポート作成に計15時間程度。 ②提出されるレポートは講評を添え毎回、速やかに返却する。									

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	オリエンテーション 『嵐が丘』を通し読むことを意識化	レポート①課題-グリム童話の再読に立ち会って(第3回に実施)	
	学習成果	読書行為を意識化でき、それについて説明できる。		
予習復習の内容	配布資料(グリム童話)を読み、諸読後の感想をまとめる。			
	予習復習の内容	配布資料を再読する。		
2回	授業内容	グリム童話再読① 「ヘンゼルとグレーテル」による主人公の探求		
	学習成果	柔軟な解釈の方法について手ごたえをもち、その意義の一端を説明できる。		
予習復習の内容	配布資料を再読する。			
	予習復習の内容	配布資料を再読する。グリム童話の関連作品を読みこむ。		
3回	授業内容	グリム童話再読② 新たなテーマの追究		
	学習成果	さまざまな角度からグリム童話作品について説明できる。		
予習復習の内容	配布資料を再読する。グリム童話の関連作品を読みこむ。			
	予習復習の内容	配布資料を再読する。グリム童話の関連作品を読みこむ。		
4回	授業内容	宮崎駿アニメを読む① 再考「となりのトトロ」		レポート②課題-授業を通し考えたこと
	学習成果	生産的解釈に立ち会い作品の新しい一面を理解し説明できる。		
予習復習の内容	宮崎駿アニメを視聴する。			
	予習復習の内容	宮崎駿アニメを視聴する。		
5回	授業内容	宮崎駿アニメを読む① 再考「千と千尋の神隠し」	レポート③課題-授業を通し考えたこと	
	学習成果	生産的解釈に立ち会い作品の新しい一面を理解し説明できる。		
予習復習の内容	江国香織作品を読んでおく。			
	予習復習の内容	江国香織作品を読んでおく。		
6回	授業内容	江国香織「すいかの匂い」を読む	レポート④課題-授業を通し考えたこと	
	学習成果	生産的解釈に自ら取り組み作品の新しい一面を理解し説明できる。		
予習復習の内容	同名短編集収録の他の作品を読む。			
	予習復習の内容	同名短編集収録の他の作品を読む。		
7回	授業内容	映画「阪急電車」についての考察①	レポート⑤課題-映画「阪急電車」を視聴して(第8回に実施)	
	学習成果	作品が日常をどのように描いているか自身の見解をもち説明できる。		
予習復習の内容	有川浩の原作『阪急電車』を読む。			
	予習復習の内容	有川浩の原作『阪急電車』を読む。		
8回	授業内容	映画「阪急電車」についての考察②	レポート⑥課題-「羅生門」が生み出したもの	
	学習成果	作品に対する見解を深め説明できる。		
予習復習の内容	『植物図鑑』など作者の別の作品を読む。			
	予習復習の内容	『植物図鑑』など作者の別の作品を読む。		
9回	授業内容	芥川龍之介「羅生門」を読む	レポート⑦課題-「羅生門」の人々について	
	学習成果	原典と比較し何が加えられたのか理解し説明できる。		
予習復習の内容	芥川龍之介「雛」を読んでおく。			
	予習復習の内容	芥川龍之介「雛」を読んでおく。		
10回	授業内容	芥川龍之介「雛」を読む	レポート⑧課題-「富嶽百景」の美について	
	学習成果	視点の違いに注目し作品を理解し説明できる。		
予習復習の内容	太宰治「富嶽百景」を読んでおく。			
	予習復習の内容	太宰治「富嶽百景」を読んでおく。		
11回	授業内容	太宰治「富嶽百景」を読む	レポート⑨課題-村上春樹『蜚』の中の日常について	
	学習成果	美の創出の観点で作品を理解し説明できる。		
予習復習の内容	美の創出に関わる代表的な作品を紹介するので、読んでおく。村上春樹『蜚』を読む			
	予習復習の内容	美の創出に関わる代表的な作品を紹介するので、読んでおく。村上春樹『蜚』を読む		
12回	授業内容	村上春樹『蜚』を読む	レポート⑩課題-演劇「彗星はいつも一人」を視聴して(第13回に実施)	
	学習成果	作品が日常をどのように描いているか自身の見解をもち説明できる。		
予習復習の内容	同名短編集収録作品を読む。			
	予習復習の内容	同名短編集収録作品を読む。		
13回	授業内容	キャラメル・ボックスの演劇作品の鑑賞①	レポート⑪課題-演劇「彗星はいつも一人」を視聴して(第13回に実施)	
	学習成果	ジャンルによる表現の違いについて理解し説明できる。		
予習復習の内容	該当作品を視聴する。			
	予習復習の内容	該当作品を視聴する。		
14回	授業内容	キャラメル・ボックスの演劇作品の鑑賞②	レポート⑫課題-演劇「彗星はいつも一人」を視聴して(第13回に実施)	
	学習成果	全体を意識しながら作品の特徴について説明できる。		
予習復習の内容	同劇団の他の演劇作品を視聴する。			
	予習復習の内容	同劇団の他の演劇作品を視聴する。		
15回	授業内容	まとめ 読書の方法と可能性についての整理	レポート⑬課題-演劇「彗星はいつも一人」を視聴して(第13回に実施)	
	学習成果	講義内容全般について理解し説明できる。		
予習復習の内容	講義内容全般を整理する。			
	予習復習の内容	講義内容全般を整理する。		

科目名	心理学入門				担当者	飯島典子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業終了後に受け付ける										
専門的 学習成果	①	心理学が扱うテーマについて説明できる。										
	②	人の知覚や認知における環境の影響について説明できる。										
	③	発達課題と心の問題について説明できる。										
	④	心理的問題への対処法について説明できる。										
	⑤	心理社会的課題について考察できる。										
	⑥	心理学的知識を日常生活に応用し生活をよりよくなる態度を身につける。										
汎用的 学習成果	(1)	自己についての理解を深める。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	現代社会の問題を解決するための知識と技能を獲得する。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(3)	より良い社会を構築しようとする態度を身につける。(専門的学習成果⑤⑥に関連)										
授業概要	本科目では、心理学ははじめて学ぶ学生のために心理学の基本的な理論や概念について網羅的に解説する。心理学とは心と行動に関する科学的学問であり、その背景には生理学的基盤がある。パーソナリティ心理学・発達心理学の領域を中心に人の考え方や行動のメカニズムを生活と関連付けて解説する。基本的には講義形式で進めるが、必要に応じてグループワークも行う。これらを通じて、受講者が自己および他者、社会について洞察できるようになることを目的としている。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60									
		レポート										
		課題への取り組み	40									
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う (2) は専門的学習成果①②③④により評価を行う (3) は専門的学習成果⑤⑥により評価を行う										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①適宜資料を配布するので、授業中に出てきた用語や関心のあるテーマについて各自で調べ知識を深めるようにすること。自ら理解を深めるために調べていると想定されることも試験範囲とする。 ②授業内でフィードバックする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション	5回目の終わりに確認テストを実施する
	学習成果	心理学が扱うテーマについて説明できる	
予習復習の内容	心理学で扱うテーマと日常生活との関連を整理する		
	授業内容	記憶と学習	
2回	学習成果	記憶と学習のメカニズムについて説明できる	
	予習復習の内容	メンタルヘルスへの対処の基礎知識として整理しておくこと	
3回	授業内容	パーソナリティの理論	
	学習成果	代表的なパーソナリティ理論を説明できる	
予習復習の内容	生活特性の形成に影響を及ぼすものについて考える		
	4回	授業内容	
4回	学習成果	ライフサイクルからみた適応の問題について説明できる	
	予習復習の内容	乳幼児期の重要性と現代社会について考える	
5回	授業内容	感情の発達	
	学習成果	感情の精緻化プロセスを説明できる	
予習復習の内容	講義内容の整理		
	6回	授業内容	脳と心の関係
6回	学習成果	心の生理学的基盤を理解する	10回目の終わりに確認テストを実施する
	予習復習の内容	講義内容を整理しメンタルヘルスとの関連について考える	
7回	授業内容	メンタルヘルス	
	学習成果	心理的問題が生じるメカニズムについて考えることができる	
予習復習の内容	講義内容の整理しストレスを軽減する手立てについて考える		
	8回	授業内容	
8回	学習成果	認知行動療法の基本的な考え方を理解している	
	予習復習の内容	講義内容の整理	
9回	授業内容	言葉と思考	
	学習成果	感情をラベリングする言葉について考えることができる	
予習復習の内容	講義内容の整理		
	10回	授業内容	
10回	学習成果	社会情動学習の方法について理解している	
	予習復習の内容	講義内容の整理	
11回	授業内容	動機づけ	
	学習成果	行動が生じるメカニズムについて考えることができる	
予習復習の内容	自分の行動パターンについて心理学的に整理する		
	12回	授業内容	問題解決と意思決定
12回	学習成果	問題解決における思考パターンについて説明できる	
	予習復習の内容	講義内容の整理	
13回	授業内容	社会的認知バイアス1 基礎理論	
	学習成果	物事を理解するときに生じる多様なバイアスを説明できる	
予習復習の内容	新聞などをから評価傾向を把握する		
	14回	授業内容	社会的認知バイアス2 対処
14回	学習成果	基礎理解をもとに正しく評価する態度を身につける	
	予習復習の内容	他者の考えをもとに自身の観点を整理する	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの講義内容を説明できる	
予習復習の内容	これまでの講義内容を整理する		

科目名	ボランティア論				担当者	ミドリ 緑 川 浩 子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	ボランティアの意義を理解し、必要性を説明できる。										
	②	ボランティア活動が担う社会的役割を理解し、重要性を説明できる。										
	③	分野別ボランティア活動の基礎知識を理解し、実際の現場で活用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	ボランティア活動の歴史や原則を学ぶことを通して、社会生活に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	ボランティア活動に期待される社会的役割を学ぶことを通して、社会貢献をすることができる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	幅広い分野(災害、児童、高齢者、障害児・者等)のボランティアスキルを身に付け、地域社会で支援活動ができる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	現在、我が国は度重なる自然災害、児童や障害者に対する「いじめ」や「虐待」問題、さらには超高齢社会と言った、これまでにない過酷な状況に置かれている。このように生きづらい現代社会においてはボランティア活動の重要性と必要性は、益々高まっている。そのような背景を踏まえ、この講義では、日常の社会生活や実際のボランティア現場で役立つ基礎的知識と技術を実践事例などを活用しながら学習する。また児童の分野のボランティア活動として、毎年、児童養護施設で生活している児童へ手作りクリスマスカードを作成し、送付している。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	10	理解度、関心の高さで評価を行う。								
		提出物	20	丁寧さ、独創性で評価を行う。								
		平常点	10	授業態度・意欲で評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③により評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名			出版社名							
	岡本 栄一	『ボランティアのすすめ』			ミネルヴァ書房							
	原田 正樹	『ボランティアを楽しむ～奉仕体験活動のアイデア & 指導演』			学事出版							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①報道や新聞、身の回りの出来事などを常にチェックし、自分に何ができるかを考え、ボランティア活動の必要性を認識しよう心がける(予習:週2時間程度)。 授業のなかで得た知識や感じたこと等についてレポートを課すので、授業内容を毎回振り返り自分なりに考察すること(復習:週2時間程度)。 ②提出されたレポートについては、適正な評価を行い返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス(かかわる～「出会い」と「つながり」の意味)	
	学習成果	人との出会いの大切さを知り社会生活に活かすことができる	
2回	予習復習の内容	講義の中の「キーワード」をまとめる	
	授業内容	なぜボランティアが必要とされるのか(歴史的流れから考察する)	
3回	学習成果	我が国のボランティアの発生とこれまでの主な活動が説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
4回	授業内容	ボランティア活動の基礎的性格と定義・原則	
	学習成果	ボランティア活動の意義とルールが説明できる	
5回	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
	授業内容	ボランティアを支える専門職とその役割(NPO法人、社会福祉協議会など)	
6回	学習成果	NPO, NGO, 社会福祉協議会の活動を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
7回	授業内容	ボランティアコーディネーターと現場の実際	
	学習成果	ボランティアコーディネーターの業務内容を説明できる	
8回	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
	授業内容	ボランティア活動の基礎的マナー	
9回	学習成果	現場での活動の際の考慮事項を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
10回	授業内容	傾聴ボランティア	
	学習成果	コミュニケーションの技術を説明できる	
11回	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
	授業内容	災害ボランティア	
12回	学習成果	災害が起きたときの援助方法を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
13回	授業内容	児童の分野のボランティア(児童問題の理解、X'masカード作成)	
	学習成果	社会的養護を必要とする児童の実態を説明できる	
14回	予習復習の内容	児童養護施設に贈るX'masカードを作成する	
	授業内容	障害児・者の分野のボランティア	
15回	学習成果	障害児・者への支援ができる	
	予習復習の内容	配布資料のポイントをチェックする	
16回	授業内容	高齢者の分野のボランティア	
	学習成果	疑似体験を通して高齢者の理解と支援ができる	
17回	予習復習の内容	疑似体験で得たことをまとめる	
	授業内容	ボランティア活動の実際	
18回	学習成果	事例を通して、実際の現場を理解し、社会で活かすことができる	
	予習復習の内容	配布資料のポイントを整理する	
19回	授業内容	ボランティア活動における記録と評価	
	学習成果	活動の記録の仕方と使い方を説明できる	
20回	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
	授業内容	スーパービジョン	
21回	学習成果	ボランティアの教育方法などを説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
22回	授業内容	まとめと振り返り	
	学習成果	これまでの学習で身に付いたことを説明できる	
23回	予習復習の内容	ノートや配布資料を整理する	
	学習成果	X'masカードを手作りする。現場に行かなくてもボランティア活動はできるということを実感する。	
24回	予習復習の内容	疑似体験を通して高齢者の身体的特徴と心理を学ぶ。	
	学習成果	疑似体験を通して高齢者の理解と支援ができる	

科目名	社会福祉概論				担当者	高橋達男						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中及び授業前後の時間以外はオフィスアワー(初回授業で説明)										
専門的 学習成果	①	社会福祉の基本的な仕組みを説明することができ、社会保障などのあり方を論ずることができる										
	②	社会福祉専門職者としての専門性と資質を述べることができ、自らの社会福祉援助観を講ずることができる										
	③	人権擁護の視点や職業倫理を獲得し、社会福祉を実践することができる										
汎用的 学習成果	(1)	国や自治体の行政に対して社会福祉や社会保障のあり方について提言することができる(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	社会福祉の利用者に対して、その課題に誠実に対応することができる(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	利用者の課題解決に向けて、関係者や関係機関と十分に連携・協働することができる(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	社会保障を含めた社会福祉の全容について学ぶ。社会福祉の歴史すなわち、その時代の福祉の課題を反映させるべく展開してきた施策の経過を学ぶことにより、超高齢化や少子化そして総人口減少という今日的課題への対処について考察を深める。現状希求されている地域福祉の実践の仔細を学び、住民に対する公助・共助のあり方を探求することに努める。また、社会福祉の価値や倫理、アイデンティティを学ぶことにより、社会福祉援助者、社会福祉専門職としての従事へのモチベーションを高めていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	20	社会福祉の価値や倫理を問い、文脈や内容で評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②で評価を行う。 (3)は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	石田慎二・山縣文治		『新・プリマーズ社会福祉 第5版』				ミネルヴァ書房					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
			『国民の福祉と介護の動向 2017/2018』				厚生労働統計協会					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキスト、レジュメ、配布資料を活用し授業を進める。事前学習として、テキストを読み予習しておくこと。関連部分について新聞やテレビ、文献などから情報収集しておくこと。(予習:週2時間程度)事後学習としては、テキスト、配布物、記録ノートを読み返して復習すること。(復習:週2時間程度) ②テキストの「章のまとめ」に沿ったディスカッションを行い、その内容についてコメント的に解説する。レポートについては、評価終了後に授業内で総括的に解説する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	社会福祉の考え方(構造、価値と倫理)	
	学習成果	社会福祉の構造や援助理念を理解し、概要を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	社会福祉を取り巻く環境(少子高齢化、現代の貧困)	
2回	学習成果	社会福祉の現代的環境を理解し、概要を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	社会福祉の歴史(戦前と戦後、社会福祉基礎構造改革)	
	学習成果	社会福祉の歴史と改革を理解し、概要を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	社会福祉の仕組み(法律、行政、財政、費用負担)	
4回	学習成果	社会福祉の仕組みの全体を理解し、筋立てて説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	社会福祉のサービス利用の仕組み	
	学習成果	社会福祉のサービス利用の仕組みの全体を理解し、体系的に説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	社会福祉の機関と施設	
6回	学習成果	社会福祉の機関と施設の種類や機能を理解し、分別して説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	社会保障(年金制度、医療保険)	
	学習成果	公的社会保険の全容を理解し、効果を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	低所得者福祉(生活保護)	
8回	学習成果	生活保護制度の詳細を理解し、原理・原則を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	児童家庭福祉(条約法律、施設、虐待対応)	
	学習成果	社会的養護のあり方を理解し、児童保護の理念を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	高齢者福祉(介護保険制度)	
10回	学習成果	介護保険制度の詳細を理解し、主旨を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	障害者福祉(法体系、理念)	
	学習成果	障害者福祉の理念を理解し、主旨を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	地域福祉(機関団体、活動)	
12回	学習成果	地域福祉支援事業の進め方を理解し、概要を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	利用者保護制度(成年後見制度等)	
	学習成果	利用者保護制度の仕組みを理解し、概要を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	社会福祉援助技術(ソーシャルワークの種類)	
14回	学習成果	社会福祉援助技術の種類を理解し、体系と過程を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
	授業内容	社会福祉援助の担い手(職場職種、資格)	
	学習成果	社会福祉援助者の実践理念を理解し、主旨を説明できる	
15回	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	

レポート(社会福祉の価値と倫理を問う)

科目名	ライフデザイン総合				担当者	ホリ 堀 良平 ・ カトウ カズコ ・ トウカイリン 東海林 ハツエ 初枝						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp (学籍番号、氏名必須) オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。											
専門的 学習成果	①	ライフデザインがなぜ重要なのかを理解し、その必要性を説明することができる。										
	②	ライフデザインを通して自身の人生を振り返るとともに、今後についても主体的に考えることができる。										
	③	人生における様々な時期を理解し、自分だけではなく他者への理解を示すことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、一人の大人として社会に貢献することができる。 (専門的学習成果①②③)										
	(2)	ライフデザインを通して得た人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、他者と協働することができる。(専門的学習成果①②③)										
	(3)	ライフデザインを通して得た専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展へ積極的に貢献することができる。(専門的学習成果①②③)										
授業概要	ヒトの誕生から老後の暮らしまでそれぞれの段階について学ぶことで、今後予想されるライフイベントを具体的に検討し、より豊かなライフデザインが行えるようにしていく。誕生から現在までは過去の自分を振り返るとともに将来の子育てについて考えるものとし、就職、結婚、老後の生活などを学ぶ中では、将来の自分や、自分自身の家族について考えていくものとする。授業の進め方としては講義形式となるが、事前のワークシートの記入や授業中のグループワーク、事後のレポート提出など積極的に参加することを求める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	80	毎回の講義で授業の感想を期日までに振り返りシートで提出するとともに、定期的に記述式のレポートを提出し、その内容を評価する。								
		グループワーク	20	講義内で行う、討議・グループワークにおける発表・参加態度を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④により行う。 (2) は専門的学習成果①②③により行う。 (3) は専門的学習成果④により行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	テキストとなる講義資料、レジュメを配布する											
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①準備学習等履修上の留意点 授業で配布する参考資料を活用し授業を進める。 <事前学習>テーマに沿った内容についてインターネット等を通して研究するとともに、事前に配布するシードがある場合はそれを記述する。(予習:週1時間程度) <事後学習>講義内で学習したことについて各自のライフデザインに合わせて振り返る。(復習:週1時間程度) ②フィードバックの方法等 提出した各種レポートについては講義時にフィードバックを行う。内容によってはグループワークを通してクラス内での共有を図っていく。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	
	学習成果	本講座での学習計画について把握する。	
2回	予習復習の内容	シラバスを読み、学習内容を確認する。	
	授業内容	ヒトの命の始まりから誕生に至る段階(胎生期)の理解	
3回	学習成果	受精から出生までの巧みさや神秘に触れ、生命の尊重、生命の連続性について感じ取ることができる。	
	予習復習の内容	配布する資料又は視聴する資料に対し、感想をまとめる。	
4回	授業内容	乳児期の理解:人間の育ちと愛着	
	学習成果	生涯発達の視点から、乳児期の重要性を理解する。基本的信頼感の獲得や愛着の形成について理解する。	
5回	予習復習の内容	事前に配布する資料を読み、関連するニュース等に目を通す。事後学習として、授業内容を確認、整理する。	
	授業内容	幼児期の理解:非認知能力と幼児期の育ち	
6回	学習成果	生涯発達の視点から、幼児期の重要性を理解する。非認知能力について理解し、幼児期の発達と遊びの意味を理解する。	
	予習復習の内容	事前に配布する資料を読み、関連するニュース等に目を通す。事後学習として、ワークシートに記載する。	
7回	授業内容	学童期の理解:自己効力感と学習のつながり	
	学習成果	生涯発達の視点から、学童期の重要性を理解する。小1プロブレム、9歳の壁等について理解し、自己効力感と学習のつながりを理解する。	
8回	予習復習の内容	事前に配布する資料を読み、関連するニュース等に目を通す。事後学習として、ワークシートに記載する。	
	授業内容	青年期～中年期の理解①:アイデンティティの確立	
9回	学習成果	自分自身の中学・高校時代を振り返りながら、現在の自分について考えることができる。	
	予習復習の内容	ワークシート(中学・高校時代の振り返り)をまとめる。	
10回	授業内容	青年期～中年期の理解②:現在の自分に対する理解	
	学習成果	短大での生活を振り返り、卒業までの目標を掲げることができる。	
11回	予習復習の内容	自分自身の卒業までの目標や考えをまとめておく。	
	授業内容	青年期～中年期の理解③:社会へ出ること(就職、自立)	
12回	学習成果	卒業後社会に出るにあたり、自立する上でのプランを主体的に考えることができる。	
	予習復習の内容	卒業後の進路について自分なりに考えるとともに、家族などの意見も聞いておく。	
13回	授業内容	青年期～中年期の理解④:人生における選択(結婚、出産、転職)	
	学習成果	人生における様々なライフイベントを理解し、自身のキャリアをより豊かにできる方法を検討できる。	
14回	予習復習の内容	卒業後の進路について自分なりに考えるとともに、家族などの意見も聞いておく。	
	授業内容	青年期～中年期の理解⑤:ライフプランを立ててみる	
15回	学習成果	青年期～中年期の学習内容を理解し、自身のライフプランを立てることができる。	
	予習復習の内容	ここまでの講義内容を振り返り、自分の今後の人生について考えをまとめておく。	
16回	授業内容	青年期～中年期の理解⑥:現在の社会情勢(政治)	
	学習成果	社会に出る上での現在の政治情勢を理解し、そこに自分のライフデザインを重ね合わせて考えることができる。	
17回	予習復習の内容	最新の時事を含めた政治問題をインターネットなどを通して把握しておく。	
	授業内容	青年期～中年期の理解⑦:現在の社会情勢(経済)	
18回	学習成果	社会に出る上での現在の経済情勢を理解し、そこに自分のライフデザインを重ね合わせて考えることができる。	
	予習復習の内容	最新の時事を含めた経済問題をインターネットなどを通して把握しておく。	
19回	授業内容	老年期の理解①:老年期の身体面、心理面、社会面の特徴	
	学習成果	加齢、老化による心身や社会的側面の変化の特徴を列挙できる。	
20回	予習復習の内容	ワークシート(老年期の特徴)をまとめる。	
	授業内容	老年期の理解②:高齢者の健康の捉え方	
21回	学習成果	高齢者の健康が注目されるようになった背景を理解し、サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング等の考え方を説明できる。	
	予習復習の内容	ワークシート(健康長寿に向けての健康)をまとめる。	
22回	授業内容	まとめ、最終レポート作成	
	学習成果	本講座を通して学習したことを整理し、その内容を説明できる。	
23回	予習復習の内容	ここまでの授業内容を復習する。	
	学習成果	学習内容を整理し、レポートとして提出する。	

科目名	英語コミュニケーション				担当者	カワベ ヒロシ 川 辺 博						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	kawabe.hiroshi@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。											
専門的 学習成果	①	英会話の基本表現を理解し、使うことができる。										
	②	英語で質問したり、自分のことを英語で説明できる。										
	③	英語学習をとおして異文化や外国語全般への関心を深める。										
汎用的 学習成果	(1)	英語の運用能力を高め、社会生活で主体的に活用できる。(専門的学習成果の①②に関連)										
	(2)	外国語や異文化に理解と関心を深め、自分とは異なる文化的背景をもつ人とも協働できる。(専門的学習成果の③に関連)										
授業概要	英会話で使用頻度の高い表現に限定して、発音練習と置き換え練習をおこなう。日本人学生が誤りやすい、または習得に困難のある発音については、調音音声学的な観点から特に丁寧に指導する。並行して、基本的な文法事項を確認する。会話形式の練習では、単に声を出すだけでなく、セリフに感情をこめて「演じる」ことを求める。教科書に示されたサンプルの表現から発展して「同じ場面で自分ならこう言う」という応用力・想像力を向上させる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	筆記試験により、内容の理解の程度と運用技能の水準を把握する。								
		レポート										
		小テスト	40	授業時間中に、復習のための小テストを3回程度実施する。また、応用力を測定するための小テストを随時おこなう。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②によって評価をおこなう。 (2) は専門的学習成果の③によって評価をおこなう。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	妻鳥千鶴子	『ゼロからスタート 英会話』				Jリサーチ出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は実際に練習する時間と位置づけ、解説は必要最小限とする。教科書で使われている単語や文法事項は、前もって調べておくこと。付属の音声CD(スマートフォン用のアプリによりダウンロード可能)をあらかじめ聞き、耳を慣らしておくこと(予習:週2時間程度)。授業後は各自または友人と組んで練習すること(復習:週2時間程度)。 ②小テストおよび期末試験は返却し、その際に解説をおこなう。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	確認・応用テストを毎回、小テストを第6回に実施
	学習成果	この授業の内容を理解するとともに、外国語学習の意義を自分なりに説明できる。	
2回	予習復習の内容	前もってシラバスを読み理解する。ガイダンスにもとづき学習計画を立てる。	
	授業内容	会話(1)はじめまして、…を紹介します	
3回	学習成果	初対面の人のあいさつや、知人を誰かに紹介する表現を使うことができる。	
	予習復習の内容	基本的なあいさつ表現を確認し、発音と「演技」を繰り返し練習する。	
4回	授業内容	会話(2)…をどう思いますか、趣味は…です	
	学習成果	印象・感想を尋ねる表現や、自分の趣味を説明する表現を使うことができる。	
5回	予習復習の内容	動名詞の機能を確認しておく。「演技」を繰り返し練習する。	
	授業内容	会話(3)…にかわってください、予定は…に変更になります	
6回	学習成果	電話で呼び出しを求める表現や、予定の変更を伝える表現を使うことができる。	
	予習復習の内容	日付の表現に必要な順序数詞を確認しておく。「演技」を繰り返し練習する。	
7回	授業内容	会話(4)…と伝えてください、…はどうか	
	学習成果	伝言を残す表現や、待ち合わせの日時・場所を提案する表現を使うことができる。	
8回	予習復習の内容	現在完了の機能や使役構文を確認しておく。「演技」を繰り返し練習する。	
	授業内容	会話(5)…しませんか、遅れてごめん	
9回	学習成果	相手を勧誘する表現や、謝罪の表現を使うことができる。	
	予習復習の内容	二者択一を導く従属接続詞の機能を確認しておく。「演技」を繰り返し練習する。	
10回	授業内容	基本表現(1)…をありがとう、…に感謝します	
	学習成果	感謝を表す表現を状況に応じて使い分けすることができる。	
11回	予習復習の内容	前置詞が支配する語形を確認しておく。	
	授業内容	基本表現(2)よくやったね、おめでとう、…したい	
12回	学習成果	お祝いの表現や欲求を表す表現を使うことができる。	
	予習復習の内容	would like に to-不定詞を接続する用法を確認しておく。	
13回	授業内容	基本表現(3)…だったらいいのに	
	学習成果	かなわない願望を語る表現を使うことができる。	
14回	予習復習の内容	wish に仮定法過去または仮定法過去完了の節を接続する用法を確認しておく。	
	授業内容	会話(6)席を予約したいのですが、お勤めはなんですか	
15回	学習成果	レストランの予約をとる表現や、注文に必要な表現を使うことができる。	
	予習復習の内容	丁寧な依頼の表現を確認しておく。「演技」を繰り返し練習する。	
16回	授業内容	会話(7)…はどのように調理しますか。	
	学習成果	料理の材料や調理方法を尋ねる表現を使うことができる。	
17回	予習復習の内容	調理方法を表す動詞の語形を確認しておく。「演技」を繰り返し練習する。	
	授業内容	会話(8)すばらしいパーティーですね、自己紹介させてください	
18回	学習成果	パーティーの席で頼出する表現を使うことができる。	
	予習復習の内容	look / sound の用法と付加疑問文を確認しておく。「演技」を繰り返し練習する。	
19回	授業内容	会話(9)…を祝して乾杯しましょう	
	学習成果	パーティーの席で頼出する表現や否定の命令(禁止)の表現を使うことができる。	
20回	予習復習の内容	否定の命令(禁止)の表現を確認しておく。	
	授業内容	応答プラクティス 会話表現の確認	
21回	学習成果	これまでの会話表現の要点を確認し、より高度な表現が使える。	
	予習復習の内容	これまでの会話表現を整理し、「演技」を繰り返し練習する。	
22回	授業内容	基本表現(4)…してくれませんか、…してもいいですか	
	学習成果	依頼や許可を求める表現と、それに対する応答を使うことができる。	
23回	予習復習の内容	依頼や許可を求める表現を整理しておく。	
	学習成果	期末試験の内容に含める	

科目名	フランス語入門				担当者	ペラン・アレクサンドラ						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		各授業の前後に対応										
専門的 学習成果	①	フランス語で初歩的な日常会話ができる。										
	②	フランスおよびフランス語圏文化について説明できる。										
	③	フランス語での自己表現や対話を通じ、フランス語でコミュニケーションがとれる。										
汎用的 学習成果	(1)	フランス語の基礎的な知識と表現方法を学び、社会や職業上で必要とされる場面での実践につなげることができる。(専門的学習成果①および③に関連)										
	(2)	日本語以外の言語の学習を通じて、自己表現方法や論理的思考法を鍛錬しつつ、他者や他言語話者理解の観点から主体的に行動できる。(専門的学習成果①および③に関連)										
	(3)	異文化に触れることでグローバルな視点を獲得し、自国や地域社会を客観視しながら、その発展や問題解決に貢献することができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	世界中の多くの国々で使用され、国連や欧州連合などでも公用語の一つに選ばれているフランス語は、実用性と論理性を高いレベルで兼ね備えた言語である。当授業では、初歩の日常的な会話表現を中心に、フランス語での簡単なコミュニケーションができることを目指す。発音・聴解・読解・文法・語彙、使用頻度の高い定型表現などあらゆる角度からアプローチし、総合的にフランス語の基礎を習得する。また、CD、DVD、映画等の視聴覚資料を適宜使用しながらフランスおよびフランス語圏の日常生活や文化を紹介し、異文化への関心・理解を深めることを目的とする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	第14回目の授業内で実施。選択式・記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		平常点	40	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①及び③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②及び③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	藤田 裕二		『パスカル・オ・ジャボン』				白水社					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
			仏和辞典 (任意)									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業内容をよく復習し、声に出しながら反復練習すること (予習・復習週4時間程度)。講義に集中して積極的に参加すること。 ②第14回授業内の期末試験後に解説を行う。(試験：1時間、解説：30分)										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	フランス語に触れる	筆記試験 (第1回～第12回の授業内容を問う)
	学習成果	フランス語の初歩的な単語を使うことができる (1)。	
予習復習 の内容	テキスト等を読み、フランス語に触れておく。		
	授業内容	『パスカル・オ・ジャボン』第0課 (1)：アルファベット、男性形・女性形、0から10までの数字	
2回	学習成果	初歩のフランス語文法を理解し、単語の女性形・男性形を区別する。	
予習復習 の内容	第1回目の授業で学習した内容に関する練習問題		
3回	授業内容	『パスカル・オ・ジャボン』第0課 (2)：フランス語の初歩的な単語、状況に応じた挨拶、自己紹介	
	学習成果	フランス語の初歩的な単語・表現を使うことができる (2)。	
予習復習 の内容	第2回目の授業で学習した内容に関する練習問題		
4回	授業内容	『パスカル・オ・ジャボン』第1課 (1)：動詞 Etre (～である) と形容詞	
	学習成果	ある場面・状況をフランス語で読解する。自己紹介ができる。	
予習復習 の内容	第3回目の授業で学習した内容に関する練習問題		
5回	授業内容	『パスカル・オ・ジャボン』第1課 (2)：第一群規則動詞 (-er 動詞)	
	学習成果	規則に基づき、-er 動詞を活用できる。	
予習復習 の内容	第4回目の授業で学習した内容に関する練習問題		
6回	授業内容	『パスカル・オ・ジャボン』第2課 (1)：形容詞と職業を表す名詞	
	学習成果	形容詞の変化規則を理解し、男性形名詞・女性形名詞を分類できる。	
予習復習 の内容	第5回目の授業で学習した内容に関する練習問題		
7回	授業内容	『パスカル・オ・ジャボン』第2課 (2)：形容詞と職業を表す名詞	
	学習成果	性・数一致の規則に応じ、形容詞を適切に使用することができる。	
予習復習 の内容	第6回目の授業で学習した内容に関する練習問題		
8回	授業内容	『パスカル・オ・ジャボン』第3課 (1)：色に関する形容詞	
	学習成果	形容詞の使い方を応用し、色を表現することができる。	
予習復習 の内容	第7回目の授業で学習した内容に関する練習問題		
9回	授業内容	『パスカル・オ・ジャボン』第3課 (2)：動詞 Avoir (～を持つ)	
	学習成果	動詞 Avoir の活用ができる。	
予習復習 の内容	第8回目の授業で学習した内容に関する練習問題		
10回	授業内容	『パスカル・オ・ジャボン』第4課 (1)：好み・関心について話す	
	学習成果	疑問文を用い、対話者に質問ができる (1)。	
予習復習 の内容	第9回目の授業で学習した内容に関する練習問題		
11回	授業内容	『パスカル・オ・ジャボン』第4課 (2)：質問をする	
	学習成果	疑問文を用い、対話者に質問ができる (2)。	
予習復習 の内容	第10回目の授業で学習した内容に関する練習問題		
12回	授業内容	『パスカル・オ・ジャボン』第4課 (3)：時刻を尋ねる	
	学習成果	時間や時刻を表現できる。	
予習復習 の内容	第10回目の授業で学習した内容に関する練習問題		
13回	授業内容	復習：前期期末試験に向けた準備	
	学習成果	第1回～第12回で学習した文法内容を適用できる	
予習復習 の内容	第12回目の授業で学習した内容に関する練習問題		
14回	授業内容	前期期末試験 (1時間)・前期期末試験の解説 (30分)	
	学習成果	自己の学習成果・理解度を把握する。	
予習復習 の内容	前期期末試験の解説		
15回	授業内容	フランス映画鑑賞	関心・意欲を平常点として評価
	学習成果	映画を通じ、フランス文化に親しむ。	
予習復習 の内容	他言語文化を考察し、ストーリーを理解する。		

科目名	韓国語入門				担当者	文 慶 喆 ・ 黄 孝 善						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		各授業の前後に対応。										
専門的 学習成果	①	韓国語のハングル文字が書ける。										
	②	韓国語のハングル文字が読める。										
	③	韓国語で基本的な挨拶ができる。										
	④	韓国語の基本文型を理解し自己紹介等ができる。										
	⑤	韓国語を通じたコミュニケーションをとることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	勉強の方法を身に付けるとともに、国際化社会を生きる幅広い教養を身に付けることができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
	(2)	多様なコミュニケーション能力を養い、グローバルな時代を生き抜く力を付けることができる。(専門的学習成果③～⑤に関連)										
	(3)	隣国の言語や文化を理解し、自分達の言語の特徴や良さを理解することができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
	(4)	積極的な自己発信ができ、また他者を理解する力を付け、共に生きる力をつけることができる。(専門的学習成果④⑤に関連)										
授業概要	いま現代は「国際化」、「情報化」の時代です。この「国際化」、「情報化」の時代に生き残るためには外国語の理解が必要不可欠です。また、韓国語は日本からすると色々な意味で一番近い言語です。この授業では韓国語を初めて学ぶ人の為にハングルの読み書きから始めます。基本文型を中心にしながらも直ぐにでも使える表現の習得も目指します。授業では韓国ドラマや映画等も取り入れて行います。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	学期内まで学習した内容に基づき、記述式の問題を課し、成績評価を行う。								
		平常点	20	授業参加態度や課題提出等を総合して評価を行う。								
		小テスト	30	毎回小テストを課し、評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (4) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文慶喆 他		『かんたん！韓国語』						朝日出版社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業をやすまないこと。 声を出して練習すること。 宿題や課題を真面目に提出すること。 ②毎回一時間程度で終わる課題を課す。課題は添削して返す。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	韓国語を学ぶ意義とハングルについて	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語を学ぶ意義とハングルについて説明できる	
	予習復習の内容	韓国語の歴史やハングルの仕組みについて	
	授業内容	ハングルの母音と子音の書き方と読み方	毎回小テストをする
2回	学習成果	ハングルの母音と子音が書けて、読むことができる	
	予習復習の内容	ハングル文字の書き方や読み方	
3回	授業内容	ハングルの音節の構成と読み方	毎回小テストをする
	学習成果	日本語の音節と比較してハングルの音節と特徴が理解でき、読むことができる。	
	予習復習の内容	ハングル音節表の作りや読み方	
4回	授業内容	ハングル語彙の読み方と自分の名前をハングルで書いてみる	毎回小テストをする
	学習成果	ハングル文字が読めて、ハングルで自分の名前が書ける。	
	予習復習の内容	ハングルで自分の名前や身近な語彙をハングルで書いてみる。	
5回	授業内容	簡単な挨拶表現と授業で使う韓国語表現	毎回小テストをする
	学習成果	簡単な挨拶表現と授業で使う韓国語表現を話すことができる	
	予習復習の内容	簡単な挨拶表現や授業で使う韓国語表現を書きながら覚える	
6回	授業内容	名詞文とその文型練習	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の名詞文とその文型の理解ができる	
	予習復習の内容	本文を暗記し、練習問題を自分の力でする	
7回	授業内容	自己紹介の実践会話と受け答え練習	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語で自己紹介ができ、その受け答えができる	
	予習復習の内容	自己紹介ができるように練習し、その課題をする	
8回	授業内容	名詞文の「-요」のタイプと漢語数詞	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の会話体が理解でき、漢語数詞で数えることができる	
	予習復習の内容	本文を暗記し、漢語数詞を書きながら覚える	
9回	授業内容	名詞文の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の名詞文の実践会話ができる	
	予習復習の内容	実践会話を暗記し、その課題をする	
10回	授業内容	時間表現と「～から～まで」の文型	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の時間表現ができ、「～から～まで」の応用会話ができる	
	予習復習の内容	韓国語の固有語数詞を覚え、時間を使った課題をする	
11回	授業内容	時間表現の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の時間表現の会話ができる	
	予習復習の内容	本文を覚え、その課題をする	
12回	授業内容	助詞「～が」の文と名詞文の否定形	毎回小テストをする
	学習成果	主語「～が」を使った文とその否定形の会話ができる	
	予習復習の内容	韓国語の否定形の練習とその課題をする	
13回	授業内容	名詞文の否定形の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の否定形を使った実践会話ができる	
	予習復習の内容	本文を暗記し、その課題をする	
14回	授業内容	指示代名詞を使った疑問文とその受け答え	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の指示代名詞を使った質問と答えができる	
	予習復習の内容	韓国語の指示代名詞を日本語と比較しながら理解し、その課題をする	
15回	授業内容	指示代名詞の疑問文の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の指示代名詞による会話ができる	
	予習復習の内容	本文を暗記し、まとめの課題をする	

科目名	情報処理演習 I				担当者	ア部よし江						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
授業回数		1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
授業時間数		30	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	Windowsの基本操作ができる。										
	②	Wordの基礎的操作を習得し、文書作成に応用できる。										
	③	インターネットを使っての情報検索、その活用ができる。										
	④	自分の保育観を取り入れた文書作成ができる。										
	⑤	Wordについて習得した知識や技能を、保育の専門科目に活用し、文書作成を実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	コンピュータの操作方法を学ぶことを通して、基礎的な学習スキルを身につけることができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	インターネット活用の必要性を学ぶことを通して、現代社会に対応できる総合的な判断力を身につけることができる。(専門的学習成果③に関連)										
	(3)	各自の保育観を取り入れた課題作成を通して、保育実務に何をどのように活用できるかの総合的な判断力を養うことができる。(専門的学習成果④⑤に関連)										
授業概要	実務に役立つツールとしてのコンピュータを総合的に活用する方法を学ぶ。演習 I に於いては、Windowsの操作方法を学び、適切にコンピュータを操作し、ファイル管理の重要性も理解する。キーボード操作やWordの基本的な操作方法を学ぶ。電子メールやウェブページの活用の必要性も理解する。演習問題にて、保育的内容の文書を繰り返し作成し、Wordの機能が保育実務にどのように活用できるかを学ぶ。保育の専門科目にもいかに応用できるかを学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	20	2回ほど筆記と実技試験を行い、3回分ほどの授業内容についての理解を評価する。								
		課題	20	授業で作成した文書を添付ファイルとして提出し、指示通りに作成されているかを評価する。提出期限を遵守する。								
		平常点	20	演習や課題への取り組み・意欲・態度により評価する。								
	実技試験	40	第15回目の授業に実技試験形式で行い、授業内容の理解について評価を行う。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果③により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④⑤により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	杉本くみ子 / 大澤栄子	『ポイントでマスター基礎からはじめる情報リテラシー 2013』						実教出版				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業内で作成した文書ファイルは"USBフラッシュメモリ"に保存するので、各自購入すること。案内文書並びに保育実務文書作成の際に、漢字の読みができない、誤変換などが無いように、教科書をよく読み保育用語等を理解しておくこと。(予習：週1時間程度)(復習：週3時間程度) ②小テストは実施後に正解を示し、解説を行う。課題ファイルは、全体的な解説や講評を行い、内容により添削後に返却し、再提出の場合もある。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、Windowsの基本操作(起動と終了、ログイン、パスワード、ログアウト)	
	学習成果	本授業の内容を理解する。コンピュータを動かすことができる。	
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。	
	授業内容	ファイルの管理(フォルダの作成、開く・保存操作)、アプリケーションの起動と終了	
3回	学習成果	指示通りにコンピュータとアプリケーションを動かすことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、操作方法を繰り返し理解する。	
4回	授業内容	キーボード操作(キーの名称とその機能、タイピング練習)	
	学習成果	キーの機能を説明できる。	
5回	予習復習の内容	文字入力をしながら各キーを実際に使用し、機能を理解する。	
	授業内容	Word文書の基礎知識/文書の要素と構成方法、入力、変換、保存	
6回	学習成果	Word文書の入力と保存ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、正確な文書入力ができるように繰り返し実践する。	
7回	授業内容	Word文書の入力と編集/ページ設定、入力、書式設定	
	学習成果	指示通りに、Word文書の編集ができる。	
8回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、Word文書の編集について理解を深める。	
	授業内容	Word表作成機能(1)/表の挿入、表の構成要素、行・列・セル	
9回	学習成果	作成した案内文書に表を挿入することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表作成について理解を深める。	
10回	授業内容	Word表作成機能(2)/表の編集(列幅、行の高さ、結合と分割、文字の配置、線種の変更等)	
	学習成果	指示通りに、表の編集ができる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表の編集について理解を深める。	
	授業内容	インターネットの活用/課題提出用のフリーメールアドレスの取得と添付ファイルでの提出	
12回	学習成果	フリーメールを使い、作成した課題を添付ファイルとして提出できる。	
	予習復習の内容	フリーメールに使用する、ログインIDとパスワードを覚えておく。	
13回	授業内容	Wordグラフィック機能(図形の活用)(1)/ワードアート、図形作成、書式設定	
	学習成果	ワードアート・図形を作成し、その編集ができる。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ワードアートや図形について理解を深める。	
	授業内容	Wordグラフィック機能(図形の活用)(2)/複数図形の配置・グループ化、テキストボックスの活用	
15回	学習成果	複数の図形の書式設定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、複数図形の活用についての理解を深める。	
16回	授業内容	Word文書へのイラストや写真の取り込み(1)/オンライン画像の検索と挿入	
	学習成果	画像検索と取り込んだ画像の編集ができる。	
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、画像の編集について理解を深める。	
	授業内容	Word文書へのイラストや写真の取り込み(2)/スマホのデジタル画像の保存と活用	
18回	学習成果	スマホのデジタル画像をコンピュータに保存できる。	
	予習復習の内容	活用するデジタル画像の準備をする。/スマホでの図作品等の撮影	
19回	授業内容	観察施設実習調査表の作成(1)/Wordの表作成機能を使用しフォーマットを作成	
	学習成果	観察施設実習調査表のフォーマットを作成できる。	
20回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、Wordの表作成機能の実務への応用についての理解を深める。	
	授業内容	観察施設実習調査表の作成(2)/実習先幼稚園の地図の取り込み	
21回	学習成果	インターネットを使用して幼稚園周辺の地図を検索し、調査表に取り込むことができる。	
	予習復習の内容	実習先幼稚園の所在地を確認しておく。	
22回	授業内容	Word実技試験/入力、ページ設定、表作成、グラフィック機能等を使用した保育実務文書の作成	
	学習成果	学習した内容を理解し、指示通りに案内文書を作成できる。	
23回	予習復習の内容	テキストや配布プリントで、試験範囲にあたる部分の内容を確認・理解しておくこと。	
	学習成果	各自の観察施設実習調査表の記入内容を事前に確認しておく。	
24回	予習復習の内容	各自の観察施設実習調査表の記入内容を事前に確認しておく。	
	学習成果	実技試験(Wordの機能やインターネットの活用をよく理解しておく)。	

科目名	情報処理演習Ⅱ				担当者	阿部よし江							
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	Word/Excel/PowerPointの各種機能を理解し、その操作ができる。											
	②	教育実習の事前資料である、指導案作成の必要性を理解し、その内容をWord機能を使用し作成できる。											
	③	スマホで記録した図工等の手作り作品の画像（デジタルデータ）を保育実務に活用できる。											
汎用的 学習成果	(1)	各種アプリケーションソフトを相互に活用する方法を学習することを通して、総合的な判断力を養うことができる。（専門的学習成果①③に関連）											
	(2)	教育実習指導案の作成を通して、自己啓発の必要性、他者とのコミュニケーションの必要性を理解することができる。（専門的学習成果②に関連）											
	(3)	デジタルデータの取り扱いの重要性を理解することで、現代社会に対応できる判断力を養うことができる。（専門的学習成果①②③に関連）											
授業概要	Word/Excel/PowerPointの基本的な操作方法を学ぶ。さらに、3つのビジネスソフトを総合的に活用する方法を学ぶ。また、他の授業内で作成した各自の図工作品などをスマートフォンで撮影し、そのデジタル画像を各種アプリケーションソフトで保育実務にどのように活用できるかを学習。教育実習にむけての事前資料（指導案）の作成に取り組むことで、学習したWordやExcelの機能やデジタル画像がどのように活用できるのかを学ぶ。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		小テスト	20	2回ほど筆記と実技試験を行い、3回分ほどの授業内容についての理解を評価する。									
		課題	20	授業で作成した文書を添付ファイルとして提出し、指示通りに作成されているかを評価する。提出期限を遵守する。									
		平常点	20	演習や課題への取り組み・意欲・態度により評価する。									
実技試験	40	第15回目の授業に実技試験形式で行い、授業内容の理解について評価を行う。											
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)(3)については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①③により評価を行う。 (2)は専門的学習成果②により評価を行う。 (3)は専門的学習成果①②③により評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名						
	杉本くみ子/大澤栄子		『ポイントでマスター基礎からはじめる情報リテラシー 2013』				実教出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①前期の「情報処理演習Ⅰ」で使用したテキストと「USBフラッシュメモリ」を演習Ⅱでも引き続き使用する。Excelについてはテキストの解説部分を授業前に読んでおくこと。指導案作成の場合には、各自の指導案をよく読み込み、内容を理解しておくこと。（予習：週1時間程度）（復習：週3時間程度） ②小テストは実施後に正解を示し、解説を行う。課題ファイルは、全体的な解説や講評を行い、内容により添削後に返却し、再提出の場合もある。											

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	演習Ⅱのガイダンス、Excelの概要説明/デモンストレーションファイルを使用しての基本操作体験		小テスト：筆記試験 第3回目の授業の前半に実施 Excelの構成要素、 四則計算の演算子 計算式の入力方法 オートフィル等	
	学習成果	本授業の内容を理解する。Excelの画面構成を説明できる。			
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、Excelの全般的な機能を理解する。				
2回	授業内容	Excel データの入力と編集/英文字・数値・日本語の入力、各種の機能の理解			
	学習成果	Excelの各種機能について学習した内容を実践できる。			
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、Excelの各種機能について理解を深める。				
3回	授業内容	Excel 計算と表示形式(1)/入力、四則計算、SUM関数、保存			
	学習成果	Excelの計算式(四則計算、SUM関数)を入力できる。			
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、四則計算、SUM関数について理解を深める。				
4回	授業内容	Excel 計算と表示形式(2)/絶対参照、基本関数、表の書式設定			小テスト：実技試験 第6回目の前半に実施 Excelの表とグラフの作成 データ入力、計算 (絶対参照、関数)、 表の編集、グラフ作成まで
	学習成果	絶対参照、基本関数の計算式を入力できる。			
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、絶対参照、基本関数について理解を深める。				
5回	授業内容	Excel グラフの作成と編集/棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ			
	学習成果	Excelの表データを使用し、グラフが作成できる。			
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、目的に合ったグラフ作成について理解を深める。				
6回	授業内容	PowerPoint(1) 基本操作/幼稚園紹介のプレゼンテーションの作成			
	学習成果	簡単なプレゼンテーションのスライドを作成できる。			
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、スライドの作成方法を理解する。				
7回	授業内容	PowerPoint(2) オブジェクトの挿入		課題への取り組み 習得した学習内容を活用	
	学習成果	Wordのグラフィック機能を応用したオブジェクトの挿入ができる。			
予習復習 の内容	スライドに使用するデジタル画像(各自の図工作品等)を準備する。				
8回	授業内容	PowerPoint(3) 効果的なプレゼンテーション			
	学習成果	スライドに画面切り替え、アニメーション効果を設定できる。			
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、目的に応じたスライドショーを実践する。				
9回	授業内容	Windowsムービーメーカー(1)/デジタルファイル(画像・音楽)の活用			課題への取り組み 習得した機能をでの画像・音楽の 編集
	学習成果	デジタルファイルを使用したスライドショーが作成できる。			
予習復習 の内容	使用するデジタルファイル(画像・音楽)を準備する。				
10回	授業内容	Windowsムービーメーカー(2)/動画、音楽の編集			
	学習成果	時間や目的に合わせて、効果的なスライドショーを作成できる。			
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、編集の必要性について理解を深める。				
11回	授業内容	実習の事前資料(指導案)作成(1)/Wordで指導案のフォーマットを作成		課題への取り組み 各自の計画した指導案への習得した 機能の活用	
	学習成果	Wordの表作成機能を活用し、指導案のフォーマットを作成できる。			
予習復習 の内容	Wordで作成する前に、各自が計画した指導案の内容を確認しておく。				
12回	授業内容	実習の事前資料(指導案)作成(2)/フォーマットへの入力			
	学習成果	各自の計画した指導案の意義と目的を確認しながら入力し、内容の改善に気づくことができる。			
予習復習 の内容	各自の指導案の内容を確認しながら、改善点に気づくよう理解を深める。				
13回	授業内容	Excel データベース機能/並べ替え、抽出			課題への取り組み データベース機能の活用 WordとExcelの連携を理解
	学習成果	Excelの表をデータベース的に利用することができる。			
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、並べ替えや抽出についての条件を理解する。				
14回	授業内容	Word・Excel データの共有/Word文書へのExcelデータの挿入			
	学習成果	Word文書に、Excelの表やグラフを貼り付けることができる。			
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、Word・Excelのデータ共有について理解を深める。				
15回	授業内容	Excel・Word実技試験/データの共有(Word文書へのExcelデータの挿入)、データベース機能			
	学習成果	学習した内容を理解し、指示通りにWord・Excelファイルを作成できる。			
予習復習 の内容	テキストや配布プリントで、試験範囲にあたる部分の内容を確認・理解しておくこと。				

科目名	海外文化研修				担当者	相 良 奈 津 ・ 山 本 信						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期集中
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	海外（渡航先）の文化や歴史について、探求心を持って計画することができる。										
	②	事前に調査・計画した研修内容を現地での行動を通して実践できる。										
	③	日常会話程度の語学力を習得して現地で活用できる。										
	④	海外で生活するに際し、自己管理と危機管理能力を意識し行動することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	基礎的な会話スキルを身につけ、多言語社会にいかすことができる。（専門的学習成果①②③④に連動）										
	(2)	多文化に対応できる総合的な判断力とコミュニケーション能力を有し、主体的に行動することができる。（専門的学習成果③④に連動）										
	(3)	国際社会での貢献をめざして、自己啓発を続け、グローバルな観点で協働することができる。（専門的学習成果②③に連動）										
授業概要	異国（海外）にて1週間程度の研修を行い、現地の経済・文化・歴史について学ぶ。また、グループに分かれ専門研修を行い、キャリア、保育の各分野で専門的知識と専門技術を習得する。さらに国際交流として大学交流やボランティアを実践し外国人とのコミュニケーションをはかる。この授業は集中講義で行い、海外研修をするにあたり、事前学習として旅券申請手続き、語学学習など研修に必要な知識と教養を身につける。研修旅行終了後は報告書を提出する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	研修旅行終了後にレポート提出する。								
		平常点	20	事前学習での取り組み、意欲、理解度により評価する。								
	研修	50	研修旅行期間中の取り組み、意欲により評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習評価③④で評価を行う。 (3) は専門的学習評価②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①1・2年共に受講できる。訪問国など、具体的な計画は新年度開講期に伝える。事前説明会を実施し、説明会に参加してからの履修も可能とする。 研修参加費用として約20万円を予定している。受講者が20名に満たない場合は中止となることがある。 事前学習として訪問国についての情報を収集しておくこと（予習：週2時間程度）。授業後は学習内容を振り返り、課題や疑問点について調べ、理解を深める（復習：週2時間程度）。 ②レポートや課題については、添削し返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 概要説明	
	学習成果	授業内容を理解し、研修の意義と目的を理解して説明できる。	
2回	予習復習の内容	事前学習としてシラバスを読み、内容を理解する。	
	授業内容	申請等の手続き、スケジュールの説明	
3回	学習成果	旅券の申請を各自行える。研修旅行日程を理解して行動計画を立案できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める	
4回	授業内容	申請等の手続き、専門研修やフィールドワーク	
	学習成果	自主研修と専門研修の内容を理解して説明できる。	
5回	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める	
	授業内容	異国の文化 ①歴史と発展	
6回	学習成果	渡航先の歴史とその発展を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める	
7回	授業内容	異国の文化 ②現代と経済	
	学習成果	渡航先の現状と経済について理解して説明できる。	
8回	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める	
	授業内容	専門研修の概要	
9回	学習成果	専門研修の内容を理解して選択できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める	
10回	授業内容	専門研修の準備 語学学習	
	学習成果	研修先の言語を学習して専門研修で活用できる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める	
	授業内容	最終案内・確認	
12回	学習成果	海外に渡航するにあたり自己管理と危機管理を実践できる	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める	
13回	授業内容	研修 第1日目	
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める	
	授業内容	研修 第2日目	
15回	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める	
16回	授業内容	研修 第3日目	
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める	
	授業内容	研修 第4日目	
18回	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める	
19回	授業内容	研修 第5日目	
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
20回	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める	
	授業内容	研修 第6日目	
21回	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める	
22回	授業内容	研修報告	
	学習成果	研修内容をまとめる	
23回	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める	
	授業内容	海外での研修内容をまとめレポート課題として提出する。	